

13 章 13, 14 節 「ですから、昼にふさわしい歩み方をしようではありませんか。遊興や酩酊ではなく、また、淫乱や好色でもなく、争いやねたみでもない生き方を。むしろ、主イエス・キリストを着なさい。そして欲望を満たそうなどと、肉の計らいをしてはなりません」

14章1-3節 「信仰において弱い者を受け入れなさい(歓迎しなさい: Welcome those who are weak in faith (NRS訳)、その考え方への批判に陥らないようにしながら。

ある人はすべてのものを食べてよいと信じています。しかし弱い人は野菜を食べます。 食べる人は食べない人を見下してはなりません。しかし一方で、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。それは、神がその人を受け入れてくださったからです」

14 章 4 節 「あなたはいったい何者なのですか、他の家のしもべをさばくとは。 自分の主人次第で彼は立ち、また倒れます。 しかし、彼は立つことになります。なぜなら、主はその人を立たせることができるからです」

14章5, 6節 「ある人はある日を別の日よりも重んじます。しかしある人はすべての日を重んじます。それぞれ自分の心の中で確信させられなさい(受動命令 Each one should be fully convinced in his own mind.: ESV訳)。

特定の日に思いを寄せる人は、主のために思っています。また食べる人は、主のために食べています。それは神に感謝しているからです。また食べない人も、主のために食べないのであって、神に感謝しています」

14章7-9節 「それは、私たちの中でだれ一人自分のために生きてはいないからです、また自分のために死ぬ人もいないからです。 もし私たちが生きるとするなら、主のために生きています。またもし死ぬとするなら、主のために死にます。ですから、生きるとしても、死ぬとしても、私たちは主のものです。 それは、このためにこそ、キリストは死んだからです、また生きられたからです。それは死んだ人にも生きています人にとっても、主となるためでした。」

14章10-12節 「それなのに、あなたは どうして、自分の兄弟をさばくのですか。またあなたは どうして自分の兄弟を見下すのですか。それは、すべての私たちが神のさばきの座に立つことになるからです。 それは次のように書かれているからです。『わたしは生きています、主は言われる。すべての膝は、わたしに向かってかがめられることになる。すべての舌は、神に告白することになる』 ですから、私たちはそれぞれ自分について、神に申し開きをすることになります」

< 関連引用聖句 > 右のページに

(I コリント 8-10 章) 「偶像に献げた肉」を食べて良いかどうかについての議論 「自分の前に出される物はどれも…食べなさい」と言いながら、それでつまりすぐ人がいるなら「食べてはいけません」という不思議な教え(同 10:27,28)。

(レビ記 23 章) 「主(ヤハウェ)の例祭」 第一の月「過越の祭り」、それから 50 日目の「五旬節の祭り」、また第七の月の 10 日の「宥め(大贖罪)の日」、第七の月の 15 日から始まる「仮庵の祭り」 クリスマスの原点「宮清めの祭り」(ヨハネ 10:22)

(使徒 20 章) パウロは第三回目伝道旅行の際にコリントに 3 カ月滞在し(3 節)、ローマ人への手紙を書いた。その後に関して「種なしパンの祭りの後にポリピから船出した」(6 節)、またエペソに立ち寄らない理由が「パウロは、できれば五旬節の旦にはエルサレムに着いていたいと、急いでいた」(16 節)と記されている。

(ガラテヤ 4:9,10) 「今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうして弱くて貧弱な、もろもろの霊に逆戻りして、もう一度改めて奴隷になりたいと願うのですか。あなたがたは、いろいろな日、月、季節、年を守っています」

(ピリピ 2:13) 「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です」

(I コリント 7:23) 「あなたがたは代価を払って買い取られたのです。 人間の奴隷になってはいけません」

(I コリント 10:31) 「あなたがたは食べるのにも飲むのにも、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」

(イザヤ 49:18) 「わたしは生きている一主(ヤハウェ)のことば」 イスラエルの民が「主(ヤハウェ)は私を見捨てた」(14 節)と嘆いている。しかし、その子らはシオンに集められてその場所は狭すぎると言われるほどに増やされると約束される(19,20 節)

(イザヤ 45:23) 「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ」(22 節)との異邦人に対する招き。そこで主は「わたしは自分にかけて誓う」と言いつつ「すべての舌」が「ただ主(ヤハウェ)にだけ、正義と力がある」と告白する異邦人の救いの約束(23,24 節)。同時に「主に向かっていきり立つ者はみな、恥を見る」(24 節)

(ローマ 10:9,10) 「もしあなたの口においてイエスを主と告白し、あなたの心において神はこの方を死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われることになります。 それは、心で信じることは義とされること、口で告白することは救われることだからです」

(I コリント 3:16,17) 「あなたがたは、自分(たち)が神の宮であり、神の御霊が自分(たち)のうちに住んでいることを知らないのですか。もしだれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです」